2025年2月1日
子どもの「能力」を伸ばす「AI時代」対応の新型子育て
講師：黒川伊保子先生　@レイクエコー

○「AI時代」に突入
　2023年、Chat GPTが公開されました。国はAI人材育成の指針を策定しました。そこで、言われるのが、必要なスキルは「対話力」だと。
　たとえば、「ウサギとカメが握手をしている」絵を出したいとき、かわいいカラーのイラストがまず出てきます。ここにシルエットにしてとかピクトグラム風になどとことばを付け加えると、自分のイメージしたイラストが出てくるのです。
　つまり、発想力と対話力だけでイラストが描けるということになるのです。これは、他のあらゆるタスクに通じます。
　しかし、イラストレーターがいらなくなるわけでは、ありません。「プロにしか発想できない」ことが価値を生む時代に突入したことを意味します。
　「プロにしか実行できないこと」は、AIが代替できる発想力と、それをことばにする力（対話力）が今まで以上に重要になるのです。

○「労働対価」から「感性対価」へ
　多くのタスクに同じパラダイムシフトが起きます。しかし、何があっても、人間は手を止めてはいけないのです。これは、体を動かしていないと「勘」は働かないからです。
　［インスピレーション］←［小脳］
　小脳は、空間認知（イメージ）と身体制御を統合します。つまり、身体を動かすから、イメージが湧くのです。
　ダンスを踊れない人には斬新な振り付けなんて発想できないし、イラストを描けない人には、見たこともない画なんて発想できないのです。だから、「手を止めない」ことが重要となります。美大生も専門学校生も絶望しなくてよいのです。

○ヒトは、好奇心が働くことにしか「勘」がつかえない
　好奇心を鍛えるためには、「たまらなく好きなもの」見つけることが重要です。「好きでたまらないを究める回路」を養成しておけば、将来、仕事にも使えるはずです。
　そのためには、かたづけなくてもよい場所を子どもにつくってあげるとよいでしょう。
　イメージを形にするのは、時間がかかるのです。成績や成果を気にせず楽しむことが大事です。飽きたところで、やめればよいのです。

○人間の問いからすべてが始まる
　質問←「勘」
　AIは、人間の質問力がなければ、ただのブラックボックスです。
　質問力を向上させるために、ふと頭に浮かんだことをことばにしてみてください。つまり、ムダ話やなんでもない話をしてみてください。雑談は「勘」を鍛え、発想力を上げるのです。頭に浮かんだその場に関係ない疑問を誰かにぶつけましょう。そうすることで、好奇心も芽生え、働きやすくなります。

○せめて、家族で、なんでもない話をしよう
　親から、なんでもない話をする習慣をつけることをおすすめします。そのためには心理的安全性が不可欠です。大切

な人の心を
　否定しない（共感）
　ダメ出しから始めない（ねぎらい）
ことが本当に重要なのです。

〇人の話は、「いいね」「わかる」で受ける
　ポジティブなこと・提案してきた→「いいね」「わかるよ」
　ネガティブなこと・相談してきた→「それはつらいね」「たいへんだったね」
　いきなりダメ出しから始めないでください。ダメ出しって究極のあら捜しモードですから。

〇家族は共感型
　評価されないとヒトは生きる意味さえ見失います。フィードバックがあることで、自分が正しく動いていることを知るのです。そのとき、いきなりのダメ出しは子どもにとって残酷です。ほめるより認めることが、フィードバックになるのです。その子が歩んだ分を認めてあげましょう。結果に一喜一憂しないということです。

　このあとは、７月の講演会と同様な栄養学的なお話があり、講演会は終わりました。

（石坂の感想）
　「AI 時代」ということで、コンピューターをしっかり学びましょうというようなお話を予想していました。しかし、予想の斜め上をいくおもしろいお話でした。
　人間の「勘」を働かすために、動き続ける必要があるということで、動き続けていこうと思いました。
　「ダンスを踊れない人には斬新な振り付けなんて発想できないし、イラストを描けない人には、見たこともない画なんて発想できない」